



佐々木小

子どもは、いずれ世に出る…その前に

校長 齋藤 博敏

間もなく、2023年（令和5年）が終わろうとしています。

年が明けると年齢が増える、いわゆる「数え年」という、年齢の数え方があります。生まれた時点「1歳」とし、以降元日を迎える度に、1歳加えると言う年齢の数え方です。この数え方をすると、新年を迎えると自分も一つ大人に近づいたようで、子どもの頃は、くすぐったいような気がしたのもでした。

子どもを育てる時、親の覚悟として「子どもを一人前に育てること」を考えていたように思います。一人前というのは、「世（よ：社会）に出て自分の力で働いて生きていくこと」を意味しています。

だから、いずれ大人になり、世に出て恥ずかしくない人になるようにと、子どもは、事あるごとに、「人様に迷惑を掛けるようなことをしてはいけない」と大人からしつけられたものでした。これは、だいたいどの家でも持っている共通の価値観ではなかったでしょうか。これを繰り返し繰り返し教えられたことによって、大人の覚悟が伝わり、私自身も、子ども心に納得したり、反省したりできるようになったと、今になって感じています。

最近、「子どもを一人前に育てる」という覚悟。言い換えれば、「子どもは、いずれ大人になる。世に出る前に、大切なことをしっかり教え、身に付けさせよう」という覚悟が薄れているのではないかと、と少し不安を抱くことがあります。

もちろん、子どもの身になって考えてあげることは、大人の大切な義務だと思います。ただ、「まだ子どもだから…」「子どもに不びんな思いをさせたくない…」「子どもの心は傷付きやすいから…」ばかりではいけないと思うのです。例えば、返事や挨拶です。名前を呼ばれたら、はっきり聞こえる返事をする。挨拶されたらきちんと返す。これは、人間関係の基本です。いつまでも「恥ずかしがり屋の性格だから」では、通用しません。身に付けさせることです。

子どもがいずれ出て行く「世」は、楽なことばかりではないのです。苦しいこと・辛いことに耐え、乗り越えなくてはいけないことがたくさんあります。

これから年末・年始にかけて、家族とのふれあいが増えるこの時期です。プレゼントやお年玉に喜ぶ子どもたちの顔を見るのは楽しいものです。しかし、大人としては、礼儀作法をはじめとする大切なことを、世に出る時を見越して、しっかり教えていく、よいチャンスの時期でもあります。教えながら、ぜひ、どんなことを期待しているか、どんな人になってほしいか、大人として、子どもに語ってあげてください。

最後になりましたが、

今学期も、学校のためにたくさんの御理解と御協力をいただきありがとうございました。保護者の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。

